

---

## 近森リハビリテーション病院言語療法科

科長 矢野 和美

---

### はじめに

2023年は、新型コロナウイルス感染症が5類になり、職員に対する検査や出勤の条件は段階を経て緩やかになったが、感染拡大予防の観点から、適宜訓練休みや実施内容が制限されることは前年と変わらなかった。スタッフや家族の体調不良による欠勤が多かったが、やりくりしながら業務を行った。

人員は、入院配属19名、外来配属3名（科長・科長補佐含む）でスタートし、年間のスタッフの出入りは、入職1名、退職3名であった。産前産後休暇、育児休業、介護休業等の長期休暇は4名が取得した。

### 業務・運営

#### 1. 実績

入院・外来における言語聴覚療法の月別実施単位数を図1・図2に、摂食機能療法（入院）の月別実施件数を図3に示す。

入院部門では、コロナ関連で訓練の実施が制限された時期が複数回あったものの、4月を除いた全ての月で実施単位数が4000単位を上回った（昨年は毎月の訓練実施単位数が4000単位を超えたのは4ヶ月のみであった）。摂食機能療法を疾患別リハビリテーションに移行を進めたことが数字に表れたものと思われる。

外来部門は、後半に若年～壮年層のオーダーが増加し、社会復帰に必要な外部との話し合いに参加するなどの間接業務多く時間を割いた。

#### 2. 教育

スタッフに対しては、オンライン勉強会の紹介を行った。

バイタルスティムの効果などの調査研究目的に、残していくデータについて検討し、マニュアルと記入表の作成に向け作業を進めている。

スタッフの資格取得については、セラピストマネージャー資格を1名が新規に取得し、もう1名は更新した。

### 言語友の会

2023年も前年同様、新型コロナ感染症感染拡大予防のため親睦会の開催は見合わせた。

### おわりに

感染症への対策は今後も継続しつつ、来年はこれまで行っていなかった対面の勉強会を再開したい。院外発表、資格取得、院外勉強会への参加などを奨励し、言語聴覚士の質の向上につなげていきたいと考えている。

また、来年6月の診療報酬改訂に伴う体制変更にも柔軟に対応していきたい。

图1. 2023年 言語聴覚療法実施単位数 (入院)

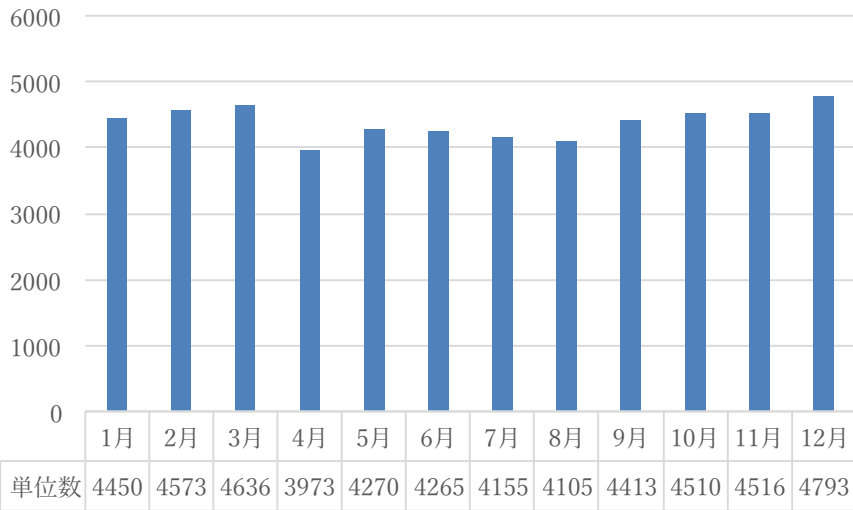


图2. 2023年 言語聴覚療法実施単位数 (外来)

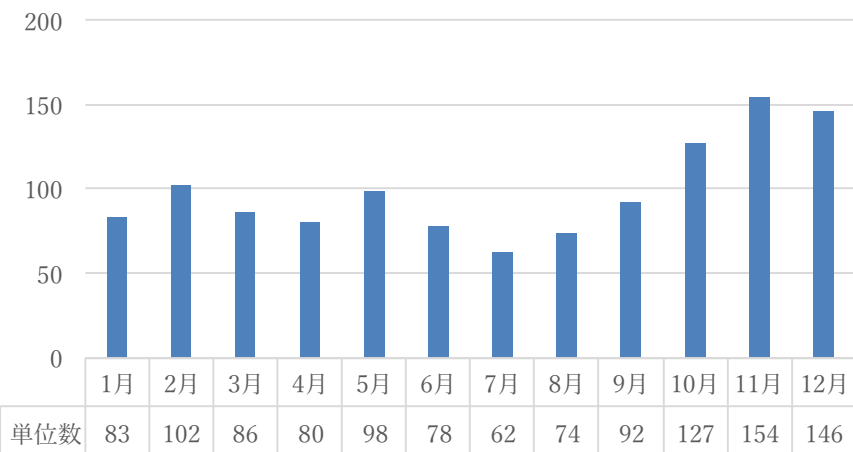
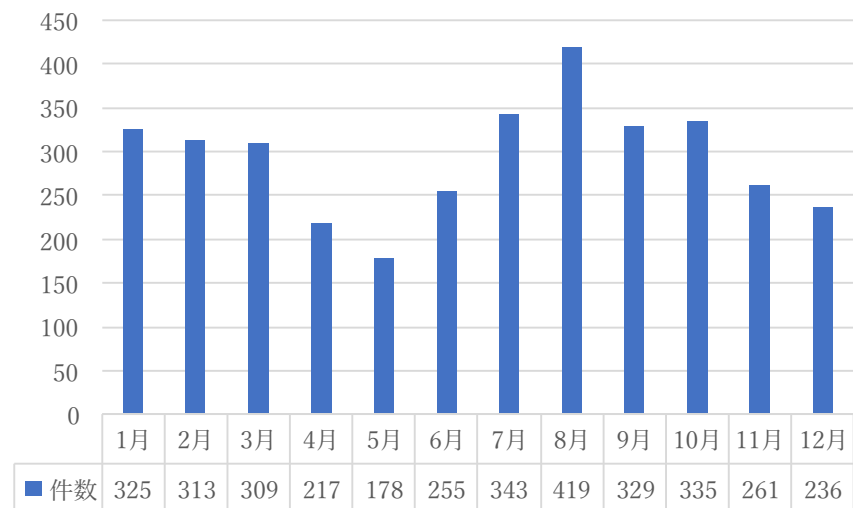


图3. 2023年 摂食機能療法実施件数 (入院)



## 学術発表・講演会等

### 学会発表

| 演題                                    | 発表者<br>共同研究者               | 学会名                        | 開催                  |
|---------------------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------|
| コロナ禍での家族指導の現状と今後の課題                   | 井上茉優<br>岩崎雅子、横畠史佳、<br>矢野和美 | 第35回高知県言語聴覚学会              | 2月12日<br>高知         |
| 当院回復期リハ病棟における嚥下障害患者の経管栄養離脱に関連する要因について | 横畠史佳<br>岩崎雅子、矢野和美          | リハビリテーション・ケア<br>合同研究大会2023 | 10月25<br>～26日<br>広島 |

### 著書

| タイトル   | 執筆者<br>共同執筆者 | 掲載誌<br>出版社 | 巻・号<br>ページ                 |
|--|--------------|------------|----------------------------|
| 特集 ここが知りたい！高次脳機能障害の患者さんの困った行動<br>困っていませんか？こんな事例<br>会話によるコミュニケーションがとれず、イライラしてしまう（失語症） | 矢野和美         | リハビリナース    | Vol.16<br>No.06<br>pp.6-11 |